



第 47 回学生弓道合同研修会

議事録



2021 年 12 月 12 日

東京都学生弓道連盟

第 47 回学生弓道合同研修会 議事録

書記：井上由一郎、伊藤朱璃

14 時 30 分 研修会開始、リーグ戦表彰式

14 時 35 分 リーグブロック分け抽選会 開始

15 時 55 分 全体討論会 開始

渡辺「これから討論会を始めさせていただきます。まず討論会の前に、竹尾先生よりお話があります。よろしくお願いします。」

竹尾先生「毎回試合を見ていると、少し気になることがありますて、こうしたらいいのではないかと思うんですけど、みなさん、どの学校もやってるとか、先輩から受け継いでそのままやっていると思うんです。今回私から3つお伝えできればと思います。」

①「射位に入っている選手に介添えの方が指示することに関して、試合が始まってから、それをするのは触ったりするのと同じ行為じゃないかと思いました。」

②「試合の始まる前に体操をすることです。体を動かすのでしたら、外でやってきてほしいです。射場に入ったら引くだけにしたらどうかと思います。」

③「足袋の滑り止めをすることに関してです。それは射場を傷つけることなので今後控えてほしいと思います。」

「皆さんは先輩たちがやっているから自分達も、と何にも不思議に思わずにやっているのだと思います。しかし私はずっと疑問に思っていたので、みなさんにも一度考えてみてほしいです。また、それは学生の皆さんが考えて、やるかやらないかを決めてほしいです。皆さんで考えてください。」

渡辺「ありがとうございます。各大学の皆さんも今の話、持ち帰って御検討いただければと思います。」

渡辺「それでは、議論の方に移りたいと思うのですが、今年度は規約の改正は視野に入れておりません。理由としては、例年この研修会は泊まりがけで2日間かけてやっているのですが、今年は感染症対策の観点から一日、しかも午後しかないということで、十分な議論は出来ないと判断したからです。」

渡辺「本日はオンライン試合における懸念点を解決していければと思います。よろしくお願いします。」

議題1「全関東大会などの女子団体の競技人数について」

渡辺「まず、全関東大会の女子の競技人数についてです。現在、女子の競技人数が増えておりまして、全関東大会については、男子の競技人数に対して女子は半分の人数となっています。これは人数があまり適切ではないのではないかとのご指摘を受けました。この女子の立ち人数を変えるということへの意見を伺いたいと思います。」

渡辺「全関東大会は都学だけではなく、関東の大学とも話し合いが必要なので、すぐに規約改正するという話や、来年から4人立にするといった、そういう話ではありません。」

渡辺「今から、こういう前情報を共有した上で、ブロックごとに別れてこれらのことを話し合っていただきたいと思います。まず、女子4人立が可能かどうか、それから可能であるとしたら、または無理だとしたらその理由を話し合ってください。そして2つ目は、もしできるとしたらどれくらいが妥当か話し合ってください。そして3つ目は、4人立にした場合、制限時間はどうか、この3点を話し合ってください。」

ブロック別討論会

渡辺「ブロック内で話し合ったことを、そのブロックにいた学連役員を指名しますので、意見をある程度まとめていただいて、発表してください。では女子IV部のAブロック、お願いします。」

女子IV部 A（福川）「3つの大学のうち2つの大学が可能。1つの大学が不可能という意見でした。可能な意見としては女子部員の人数が多い。不可能な理由としては女子部員が少ない上に、コロナ禍の影響で来年入ってくる人数がわからないというのがありました。2つ目にいつごろ可能だろうかということについて、2つの大学が次の大会から4人で参加することが可能。1つの大学が、2、3年経ってからの開催が良いということでした。3つ目の時間については3つの大学とも7分半で大丈夫という意見が出ました。以上です。」

渡辺「ありがとうございました。では次に、女子II部のAブロック、お願いします。」

女子II部 A（横井）「どの大学も4人立なら可能ということでした。理由としては実力のある選手が3人立だと活躍できないという意見がありました。ですが、今後もし5人立ということになれば、人数が足りないという理由ですぐには不可能ということでした。次にいつから可能かということですが、人数さえ足りていればできるだけ早くということでした。最後に制限時間についてですが、7分半ではなく8分という意見が出ましたので、8分ということをお願いします。以上です。」

渡辺「はい、ありがとうございました。事前アンケートでも全体的に賛成の意見が多かったのですが、反対する大学の意見も聞きたいです。どうですか。」

女子Ⅲ部 C（市川）「もちろん全体としては賛成意見が多かったのですが、一つ反対意見としてお伝えしたいことがありまして、Ⅲ部ならではの意見で、3人立であればⅠ部校とかにも勝てるかもしれないという可能性があるとのこと。3人立であれば少数精鋭で戦えるんじゃないか、ということがありました。3人だったら可能性があるけれども、4人だったら強豪校には勝てない可能性も高くなってくるといった反対意見が一つありました。また、時期についてですが、コロナ禍が落ち着いて、さらに今の一年生が育ったころ、なので6、7年後がいいです。それくらいの時期が妥当な時期ではないかと考えているという意見がありました。以上です。」

渡辺「ありがとうございます。コロナ禍が終わってからというのは的を射ていると思います。先ほど僕も、コロナ禍で授業がオンラインになったせいで実家に帰っているという部員が多いという部活もあると聞いたので、今すぐにといったことは難しいといったことはわかりました。他に何かありますか。」

女子Ⅳ部 A（福川）「すいません、反対意見で、先ほどのⅣ部 A ブロックで追加なんですけれども、コロナの理由というのも、もちろんあるんですけど、理系の大学ならではの問題として、女子の方が男子よりも人数が少ないというのがありました。そもそも大学として男子の人数が多く、女子の人数が少ないというのがあり、弓道部に入る人数としても女子が少ないというのが問題点として挙げられました。以上です。」

渡辺「はい、ありがとうございます。確かにそうですね、男女比が極端に偏っているところもありますよね。ありがとうございます。こんな感じで学連役員、何か他に意見ありますか。」

渡辺「このままだと学連役員の会議みたいになっちゃうので、そろそろ加盟校の皆さんの意見も聞きたいと思います。今までのブロック別討論会、それからブロック別を元にした意見の交換というのを元にして、何かご意見ある方いらっしゃるでしょうか。ぜひ伺いたいです。」

渡辺「では当てたいと思います。早稲田大学の大沢さん。男子なのでなかなか馴染みがないかもしれませんが、そういった視点からの意見もぜひ伺いたいです。」

早稲田大学「早稲田大学の大沢です。女子部の競技人数の変更にしまして、男子の目線に

なると思うんですけど、3人から4人に増えるというところで、弓道の競技性は非常に上がるのかなというふうに思います。ただ、反対意見にもあるように、人数が準備できない大学や、女子部の人数が少ない大学もありますので、しっかりと議論していくということが大会の運営にとっても一番重要なことなのかなと思いますので、一概に3人、4人がいいとは言えないというふうに考えております。以上です。」

渡辺「ありがとうございます。的を射た意見で、本当にありがとうございます。じゃあ、次に慶應義塾大学の女子の方。」

慶應義塾大学「慶應義塾大学の渡辺と申します。うちの大学としては、競技人数の変更に對しては賛成です。理由といたしましては、うちの大学は人数が多くいるので、選手が足りないというのはあまり考えられないというのと、制限時間に関しては行射が遅いので、8分ぐらいがいいかなと思っています。今たくさんお話を伺って、確かにすぐの導入は難しいというのはすごく分かった上で、4人になるというのはすごく難しいというのが分かったので、賛成というのも言えなくなったという感じです。以上です。」

渡辺「ありがとうございました。他に何かありませんか。どうぞ。」

東洋大学「東洋大学主将の島田大地です。本学の意見といたしましては、反対です。理由としては、本学は女子が1、2、3年生で3人しかいなくて、コロナ禍で新歓活動が十分にできなくて、その中で4人にして、出場機会を創出するためというのもあるんですけど、自分のブロックで出た意見で、3校不可というのがありまして、考えてみるとその3校というのは3人なら出られると思うんですけど、出場機会を剥奪されてしまったに近いと思うんですけど、そうすると上位校と下位校の格差がうまれて、やっぱり全関の面白さっているのは、3人だからこそこが勝つかわからないというのがあると考えてまして、4人にしてしまうと、その面白さが少しなくなってしまうのではないかなと考えています。今、もし賛成にするとしたら、コロナ禍が落ち着いてから、5年後というのがいいのではないかなと考えました。以上です。」

渡辺「ありがとうございました。やっぱりコロナ禍が終わってからという意見が多いのでしょうか。人数が少ないというのは、コロナ禍によって少なくなってしまったのでしょうか。それとも、元々人数が少なかったということなののでしょうか。」

東洋大学「元々10人はいたのですが、今の4年生が卒業してしまって、今の1、2年生で新入生歓迎会もできていない中で、部員が減ってしまいました。なので、コロナ禍で減ってしまったと思います。」

渡辺「やはり感染症が影響しているんですね。わかりました。じゃあ他に何かありますか。」

渡辺「先ほど、競技が面白い、面白くないというお話、ご指摘いただいたと思います。そういうイメージで、3人のチームを2つ出せるという、新人戦に似た形式ですね、実際にできるかどうかというのは、タイムスケジュール的になかなか厳しいのですが、そういう3人立を2つ出せるという制度、これについて皆さんどうですか。」

東京大学「本学はコロナ禍で女子が増えたが、コロナ禍が終わった後の見通しが立たない状況です。3人立を2チーム出すだと柔軟に対応ができるので、賛成します。」

早稲田大学「本学としては3人立を2チーム出すことには、積極的に賛成します。しかし現実問題として試合が長引いてしまうのではないかと思いますので、2チーム出せる大学を絞る必要があると考えます。また、1チームしか出せない大学と2チーム出せる大学で差が生じるのではないかと思います。2チーム出せる大学が確率として勝ちやすくなるのは不公平だと思います。」

渡辺「確かに運営上厳しい点はあると思います。また、制度として不公平というのはあると思います。今後またアンケートを取って検討していきます。」

議題2「学連規約第 27 条「懲戒処分」の適用範囲と基準について」

渡辺「学連規約第 27 条について、お手元の資料の方をご覧ください。

『加盟校が本連盟の目的にそぐわない不都合な行為をした場合、本連盟は、それを懲戒することができる。懲戒は次の方法で行う。(学連規約 27 条)』

要約しますと、提出物が遅れたら始末書を書いてもらうという内容です。それでも改善が見られなければ、3,000 円払ってもらいます。また、試合の運営に重大な支障をきたした場合は、始末書に加えて 5,000 円の罰金を徴収します。ここまではあまりないのですが、これ以上の重大な支障をきたした場合、一定期間の試合の出場停止というふうになります。

今まではあまり使っていなかったのですが、また後ほどご説明しますが、今回試合の運営上に重大な支障をきたした事例が見られましたので、この規約を引っ張ってまいりました。

ここは難しいところなのですが、例えば関西学連さんとかですと、提出物遅れを一切認めないことや、Zoom のミーティングの会議に遅刻すると罰金を科す、などの運営をしてらっしゃいます。都学は提出物遅れても、なんとかいいよという感じで今までやってきましたということなんですが、最近、提出物遅れが目立っています。我々に少し不都合なことが増えてきたので、こういった規約があるということを、加盟校の皆様にご確認いただければと思います。こういう風にすると皆さん緊張が走ると思います。あまりにも酷い場合、罰金を科すことになるかもしれないのですが、やはり今の状況といたしまして、コロナ禍ということで、なかなか皆さん引き継ぎなど十分に出来てない大学も多くあるかと思います。やはりそういった大学に配慮するという意味でも、今すぐにどうこうする話ではないですが、不安定な社会情勢が回復して、まだ改善が見られないということであれば、これらの規約を適用する場合がございますので、ご了承ください。以上が学連規約第 27 条についてでした。

こちらに関してブロック毎に討論することはないのですが、何か質問やご意見ある方いらっしゃいますか。言いたいことがある方はいらっしゃいますか。」

学習院大学「学習院大学で、素朴な疑問なんですけど、この徴収した 1,000 円とか 5,000 円とかってというのは、一体どういう感じに使われるのかなっていうことを伺いたいです。」

渡辺「わかりました、ありがとうございます。事前にアンケート取った結果で、同じような質問が見られました。このお金を何に使うのという話ですよね。ご安心ください。我々が私用で使うなど、そういうことは一切ありません。主に、都学の運営費です。コロナ禍のせいで、OB 戦などの試合を行うことができていないので、収入が減っている状況です。

なので足りない分の運営費に充てさせていただきます。しかし、不透明な部分もあると思うので、何に使ったかということは必ず明示します。

ありがとうございます。他に何かありますか。

ということで、すぐに何かをするという話ではないのですが、あまりにも提出物毎回遅れるといったことがあると、始末書を書いてもらうかもしれないので、気をつけてください。」

議題3 R4 リーグ戦における懲戒処分事案の内容について

渡辺「今年度のリーグ戦で、学連規約第 27 条を適用した事態が起きました。

試合の直前に立ち合い業務の放棄をした大学が複数いたからです。

今回は学連役員が負担し、何とか対応できましたが、試合の運営に支障をきたす恐れがあった為、今後このようなことがないように今回懲戒処分を課しました。」

渡辺「何か質問がある方いらっしゃいますか。大丈夫そうなので、休憩を取ります。」

休憩 17 時 00 分～17 時 20 分

議題4 オンライン試合に関する問題点

渡辺「オンライン上での試合のトラブルについて、度々報告されていたので、今回解決していければと思います。」

①ポケット Wi-Fi の貸し出しについて

渡辺「多くの大学からポケット Wi-Fi の貸し出しの要望がありました。

しかし、これは大学の設備の問題であるため、学連が介入する問題ではないと判断いたしました。なので、東京都学生弓道連盟からのポケット Wi-Fi の貸し出しはありません。なにか意見はありますか。」

大正大学「大学の道場が三的展開であり、試合の際に外部の道場を借りるので、一概に大学の設備の問題とは言えないのではないのでしょうか。」

渡辺「そうですね。必ずしも大学の設備ということではないです。

オンライン機器に関しては、大会の前に学連側から、Wi-Fi の設備を貸し出すよう、各大学にお願いの資料を配布することを検討しています。」

②試合・大会中に Zoom の接続が切れてしまった場合の対応

渡辺「急に Zoom が落ちてしまったときの対処法です。公式の回答を提示します。

まず、Wi-Fi が弱いことが分かっているならば、事前にオンライン機器を借りて対策をしてくださいます。それでも Wi-Fi が不安定なときのために、すぐに連絡できるよう、事前に立ち合いと対戦校で緊急連絡先を交換してください。緊急連絡先は LINE やオープンチャット、携帯の電話番号等。」

渡辺「実際に試合中の通信環境が悪いときの対策案を提示します。立ち合いになった時を想定してください。」

(1)立合校が映像及び音声に乱れが生じた時点で行射を止める。この時、映像及び音声は乱れる前の的中を記録する。

渡辺「映像や音声に乱れが生じたところで行射を止めます。この時、映像や音声は止まる前の的中を記録しておいてください。文言等は資料に記載しているので、各自確認してください。映像や音声の乱れの判断が難しいと思います。対戦校と立ち合い校で話し合ってください。最終的な判断は立ち合い校が行ってください。」

(2)行射を止めてからの的中の記録は無効とする。

渡辺「行射を止めてからの的中の記録は無効とします。立ち合いはどこの的中から無効かを指示すること。」

(3)映像、音声が復旧した後、無効となった矢から行射を再開し、その結果を正式な記録とする。

渡辺「映像や音声が復旧した後、無効となった矢から行射を再開し、その結果を正式な記録とします。文言に訂正があります。オンラインマニュアルには訂正したものを記載します。今回は口頭で説明します。

文言に追加する内容

『映像や音声が復旧した後に矢取りを行う』

映像や音声が復旧し、矢取りを行った後に無効になった矢から行射を再開する、という流れですね。」

(4)行射停止の判断の目安

渡辺「行射停止の判断の目安について。映像が止まっている大学は止まっていることに気付かないことも多いと思います。不正をするということはないと思いますので、あくまで監視のためということで、不正というのは元から念頭に入れておりません。なので少し止まったからといって、すぐに停止することはやめてください。なるべく行射開始後は行射の進行ガイドを優先してください。」

渡辺「引き直しはどのようなときに行えばいいのか、について、あくまで目安ですが、打ち起こしから離れまですべてが見られなかった場合、このようなときに引き直しを行ってください。もちろん大前の入場時に映像が止まることや、初矢より前に映像や音声に乱れがある場合は止めてもらって構いません。柔軟な対応をお願いします。」

渡辺「これまででご意見やご質問ありますか。このような対処法で対応できそうでしょうか。また、オンラインマニュアルを再度ご確認ください。」

③オンライン試合に関する問題点について

(1)オンライン試合における付け矢終了～試合開始時刻の変更

渡辺「オンライン試合に関するタイムテーブルの変更を行います。今までは持ち矢から試合開始まで10分しかなかったのですが、なかなか選手選考が終わらないとか、そういったことがありました。新しいバージョンでは持ち矢を20分目安にとり10時40分に試合開始という風にしました。」

渡辺「オンラインでの持ち矢20分に関して、反対意見はありますか。」

青山学院大学「自分の大学は道場を持たない大学で、今回かなりご配慮いただいて、試合時刻の変更を行いました。インターバルが伸びると、道場貸し出し時間を過ぎてしまうので時間を繰り上げて始めてもいいでしょうか。」

渡辺「そうですね。結論としては大丈夫です。同日であれば時間を早めたり遅めたりするには構いません。時間の間隔は守ってほしいのですが、こちらでよろしいでしょうか。」

青山学院大学「大丈夫です。ありがとうございました。」

(2)的中確認時の矢取りに関して

渡辺「オンラインでの試合に関して矢取りに認識に誤りがあったみたいで、若干トラブルがありました。各大学で矢取りの仕方は違うと思いますが、オンライン試合に関しては学連側で矢取りの文言など、ある程度統一しても良いかと思いました。一旦ここに提案させていただきます。」

渡辺「まず、オンラインでの試合における的中の確認は大きく分けて二つあります。一つ目は行射中に○×を伝えるもの、もう一つは行射終了時の確認です。後者の行射終了時の確認は、立合いの返事があるまで完了しない、立合いの的中確認の返事があるまでは絶対に矢に触れてはいけないというものがあります。ここで文言を提示します。

立ち合いの返事があるまで、絶対に矢に触れず、次の的に進まないでください。

最後に立合いの「はい、結構です。」の声がかかるまで全ての矢には絶対に触れないでください。自分の大学の看的とかの人が「はい、結構です。」と言って矢を抜いてしまった場合は無効になってしまうのでご注意ください。」

渡辺「こちらに関して、ご意見ありますか。」

渡辺「特にないということであれば、今後オンラインでの試合に関して、これらの文言を守っていただき、これらの順番で的中確認を行ってください。これらはオンラインマニュアルに記載していきます。」

議題5 順延試合の有効期間について

渡辺「こちら色々な要因がありますね。昨年度は延期を余儀なくされた試合が多くありました。その理由として、大学側から試合の許可が下りなかったり、なかなか外部の道場が予約できないであったり、台風などが挙げられます。なので我々は、今年度は試合を行うということを優先しました。そこで、様々な事情を踏まえたうえで、試合を延期することができる範囲について話したいです。」

渡辺「本年度は試合の実施を優先した結果、以下の①から⑥までのケースを許しました。

- ① 予定日予定時刻
- ② 予定日で予定外の時刻(午前から午後に移動)
- ③ 次の日
- ④ 次の週
- ⑤ 予備の週（百射会・女子部記録会の週が空いたため予備の週とした）
- ⑥ 両校が別日に試合を行う

予定日予定時刻以外での試合は、どこまで公平性が保てるか、許容できるかをブロック別で話し合ってください。」

ブロック別討論会 17時45分～18時20分

渡辺「それでは各ブロックの意見を発表していただきます。」

※（氏名）はブロック毎の意見をまとめた学連役員

男子Ⅰ部（若尾）「⑥は基本的になし。2、3日の練習では実力に差は出ないが、期間が長いと差が生まれて負けてしまう可能性がある。後で試合を行う大学には的中は教えないでほしい。」

男子Ⅱ部（伊藤尚）「⑥は認めないけど他に方法がないなら仕方ない。ただしその場合、昼と夜で的中に差が出るため時間帯は昼で統一するべき。予備週はあり。」

男子Ⅲ部A（竹中）「道場がないなどの不可抗力である以上、例外的に⑥まで認めるべき。対戦校立ち合いの納得があればいいのではないか。」

男子Ⅲ部B（清田）「順延の理由に学業は認められるのか→基本認めたくないという意見と両校が合意していればいいという意見がある。当日人が足りないから日程をずらせるのが

オンラインの強みでは→認めたくない。⑥は立ち合いと対戦校の人がいれば公平性を担保できてかつ柔軟な対応ができるのではないか。」

男子Ⅳ部 A（河崎）「対戦校同士と立ち合いが納得の上で⑥の別日開催あり。道場が使えないなら⑥も良い。予定が合わなかったら負け。延期をする場合、最長でどのくらい認められるかの学連の基準が欲しい。予備週は欲しい。」

男子Ⅳ部 B（井上）「⑥は認めないで、加盟校同士で予備週をあらかじめ設定して、試合を行う。順延が2週あった場合は①から⑥を検討。」

男子Ⅳ部 C（藤原）「⑥の公平性を保つなら相手校を立ち合いに加えればよい。対戦校同士で話し合いしていいならいい。外部道場を借りているところでは、日程変更が難しい。なので延期の期限を知りたい。予備の週とかっていつまでいいのか。」

男子Ⅴ部 A（金光）「⑥は練習量に差が出るのでなし。試合が決まった日と予備日にできない場合はその他のリーグの的中率で勝敗を決める。基本的に予備日もリーグ期間なので予定を空けておく」

男子Ⅴ部 B（齊藤）「③と④に関して、③試合が連続になると対戦校に負担、④が③と入れ替わるほうがいいのでは。次の週の方が都合もつきやすい、⑥は妥当ではない。」

男子Ⅴ部 C（野田）「①～⑤は認める。③まででもよい。外部道場の利用を踏まえて、不戦勝が出ないように、今までのリーグの的中率から勝敗を決定する方がよい。⑥を無しにした場合の勝敗をどう決めるか。」

女子Ⅰ部（平野）「①から⑤まで許容。⑥は許容しない。理由は、

- ・別日の場合、試合までの調整期間に差が出る
- ・天候の変化が的中に影響する
- ・立ち合いの回数が増えて、立ち合いの負担になる
- ・試合の意義が見出せない

→相手の的中が分かった状態で試合を行うのはどうなのか

→モチベーションの変化

⑥がないように道場の確保が難しい大学へ加盟校内で道場の貸し出しを行い、同日開催を目指す。

→事前に加盟校へアンケートを取るなどして、予定を立てる。

→部員制限やコロナ対策を行う事で他学道場での試合開催も可能なのではないか。」

女子Ⅱ部 A（横井）「①から③まで認める。公平性の観点から⑥は認めない。翌週より予備週の開催が良い。④と⑤については、公平性の観点から⑤の方が順位は上では？学連がもう少し日程提示を早くしてくれれば道場確保できるかもしれない。」

女子Ⅱ部 B（川西）「①から⑤まで許容。⑥の別日にすると、本来の試合日とかけ離れるおそれがある。また、⑥まで許容するなら、本来の試合日から 1 ヶ月以内といった『期限』を設けるべき。」

女子Ⅲ部 A（宮崎）「①から⑤まで許容。⑥は公平性に欠けるためやむを得ない場合を除き認めない。予備週をもっと設けてほしい。」

女子Ⅲ部 B（安藤）「①から⑤まで許容。⑥は認めない。延期を認める条件を定めてほしい。学連役員が介入しない理由を明らかにし、提示してほしい。」

女子Ⅲ部 C（市川）「⑤まで許容。⑥は緊張感や公平性がない為、基本許容しない方向。解決案として、他大学から道場を借りる（学連が道場をリストアップ）。懸念点としては、貸す側の他大学が練習をする機会を奪ってしまうこと。土日への変更で授業の兼ね合いから参加できない選手がいるかもしれないので、公平性に欠ける。」

女子Ⅳ部 A（福川）「公平性の観点から原則⑥は無し。③、④は調整が難しいため⑤を優先しても良いのではないか。延期する際、正当な事由の解釈の基準を学連で定めるべき。」

女子Ⅳ部 B（高橋）「⑥は原則認めない。実際、予定していた日に試合が行えなくなり、やむを得ず別日に行くことを許可したが、その日にフルメンバーが揃わず、十分な実力が発揮できなかったのが公平性に欠けると思うことがあった。」

女子Ⅳ部 C（桑原）「⑥の別日開催は基本的になし。やるとしても 2 週間以内。別日に行うと精神面での不公平がある。別日に行う際に先行の大学の的中を相手校の試合が終わるまで開示しないことは出来ないか。（対戦校と立ち合いの両方での的中の担保ができなくなる。）」

女子Ⅴ部 A・B（伊藤朱、南嶋）「①から⑥まで許容。外部の道場を使用しているのが 4 大学あり、急に日程変更されると道場が予約できない。また道場が予約できたとしても急な招集では人数が揃わない。」

渡辺「ありがとうございました。各ブロックの意見を聞かせていただきました。
議論が紛糾してきたので一回学連で集約したいと思います。長くなってしまいましたので、15分休憩に入ります。」

学連役員による話し合い 18時40分～19時00分

渡辺「それでは再開いたします。先ほど学連役員で話し合いましたのでその内容をお伝えします。

まず、延期される試合でどこまでの順延が許されるかについて、大体加盟校の意見として『⑤予備の週で行う』まで許容するという案が多く挙げられました。また、『⑥両校が別日で試合を行う』ことを許容しかねるという意見も多く挙げられました。
というわけで、ここで二つの選択肢が生まれます。

一つ目は、あらかじめ予備の週を設けるということです。
利点として、延期する試合があったとしても事前に道場や人員を押さえておくことができます。また、予備の週までの期間はどの加盟校も同じなので公平性を保てるのではないかという風に考えました。
ですが、問題点として、予備の週を2週間設けるにあたって、リーグ戦の日程を後ろにずらすと伊勢大会と被ってしまいます。前にずらすと先ほど加盟校の皆さんに練習試合を組んでもらいましたが、その日程と被ってしまう可能性があります。ですから、予備週を設けようとする、練習試合を解除していただく可能性があります。もう一つの懸念点として第一週が順延になった場合、少なくとも第五週以降に第一週の順延試合を行うので大幅に期間が開いてしまいます。なので公平性に欠いてしまうこともあるのではないかと考えました。

二つ目は、『両校が別日に試合を行う』ことを許容するということです。
各ブロックの意見を聞き学連役員で話し合いましたが、別日に試合を行うことを禁止したときの勝敗の決め方に関して、良い案が出ませんでした。なので、予備の週を設けるということが無理であれば、両校が別日に試合を行うことを容認せざるを得ない、と我々学連役員は考えました。これに関して質問などありますか。また、この二つの選択肢に関して、加盟校の皆様にご意見を伺いたく時間を五分ほど設けたいと思います。」

加盟校同士の話し合い 19時15分～19時50分

渡辺「再開します。順延試合の期限をどこまで許すかについて、あらかじめ予備の週を設けるか、別日に試合をすることを許容するか話し合っていました。

それでは意見をお聞きしたいと思います。」

東京大学「東京大学としては⑥『別日に試合を行うこと』を容認しても良いと思います。当事者間が同意していても、他の大学側からすると不公平だということについて、その理由を詳しく聞いてみたいです。なぜなら、当事者間にいない他の大学から見て不公平というのは、当事者間の勝敗が自分たちの勝敗に影響を及ぼす可能性があるかもしれないという考えで、これは結局主観であって、公平性の話でないのではないかと思うからです。」

渡辺「ありがとうございます。確かにそうですね。条件が揃わないというだけで果たしてどれだけ影響しているかはわからないので。」

渡辺「他になにかある方いらっしゃいますか。質問でも大丈夫です。」

東京農業大学「先ほどの話だと、予備週をリーグ戦期間の前にとるという話だったと思いますが、これはリーグ戦期間直前に自然災害で大学が使えなくなってしまう場合、予備週は終わっているじゃないですか。」

渡辺「すみません。僕の言葉足らずでした。予備週を設ける場合、第一週、第二週、・・・、第五週、予備週①、予備週②、順位決定戦、入れ替え戦という順番にしたいです。ですが、例年通りの日程から始めてしまうと、予備週が入ることによって、伊勢大会の日程と被ってしまってダメなので、リーグ戦自体を一週間早く始めるという意味です。なので、予備週は第五週が終わった後に設けるという話です。」

東京農業大学「それでしたら大丈夫です。」

渡辺「他になにかご質問やご意見ありますか。」

法政大学「⑥に関して、どうしても無理ならいいかなと思うのですが、I部校としては、道場があるので、日程をずらして試合をするということがまずないので、予備週でリーグ戦が一週間前倒しにされる方が迷惑というかありえないので、そのところよろしく願いします。」

渡辺「分かりました。率直なご意見ありがとうございます。道場がある場合とかはそうですね。まあ、例えば台風とかもございますし、そもそも我々学連が中止という場合もあ

りますので、一概には言えないですね。ありがとうございました。他になにかありますか。」

早稲田大学「8月末に合宿を行っているので、合宿の次の週からリーグ戦が始まることになるので、法政大学と同じようにリーグ戦が一週間前倒しになるとしんどいので、予備週は容認しかねます。」

渡辺「わかりました。それでは、休憩を取った後に議決で別日での試合を容認するか、予備の週を設けるか決めようと思います。前提として⑥の適用は積極的なものではありません。」

休憩 19時55分～20時05分

渡辺「議決を開始します。」

議決 各校1票 有効票53票

⑥『両校が別日に試合を行う』容認案 47票

→ 過半数 よって可決

南嶋「⑥別日での試合を容認するに47票で過半数を超えたため、仕方ない場合に限り⑥を容認することに決定いたしました。」

渡辺「というわけで、長らく続いた議論もこれで終わりです。最後に説明して終わろうと思います。まず、要項に記載してある予定日、予定時刻が最優先です。次に予定日で予定外の時刻、三番目が次の日、四番目が次の週、五番目が予備の週、次に本当にどうしようもなかった時のみ、別日に試合を行うという風にしてください。以上です。」

東洋大学「両校別日に試合をする場合、期限はどのようになりますか。」

渡辺「そうですね。今後期限を設けることはあると思います。実施要項等に記載しますのであらかじめご確認ください。」

南嶋「④について、一週間以内にできるのであれば④に該当します。リーグ戦においては、順位決定戦や入れ替え戦の前に行っていただくことになります。」

桜美林「②について、対戦校の相手のみ午前しか使えない場合は、③に移行した方が良いでしょうか。」

渡辺「同時に行射できない場合、⑥になります。②以下を検討してください。」

渡辺「質問がないため、議論を終了したいと思います。長らくお疲れ様でした。」

20 時 30 分 学生弓道合同研修会 終了

End.